

オタクの老後

1,000円の本が
2時間で完売!?

コミックマーケットを知っていますか!!

かつては、オタクにしか知られていない謎のイベントでしたが、最近ではNHK等でも特集されてしまい、世間の皆様にも、その存在が露出しつつある。漫画等の同人誌が沢山集まるお祭りです。

私、浦田直樹は実は「オタク」でして、12年にわたって、そこで同人誌を発表してきました。

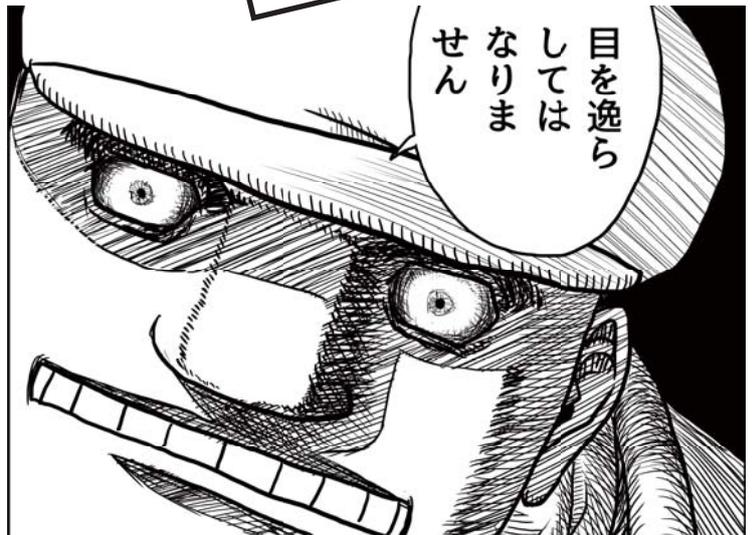
ゲームや秋葉原、麻雀やDJなど。都度様々にテーマを変えて評論誌を書いて発表してきたという、世間様に自信を持って「……はい……私は……私は、オタク……です……(((° 旦 ;)))」と言える男です。



そんな私は、先年12月30日のコミックマーケットにて「オタクの老後」という評論同人誌を出してみたところ、想像の遙か上を行く好評で、夕方までの開催なのに、昼過ぎには完売してしまいました。

60頁で100冊、1冊1,000円の本が2時間半で売り切れ…

「老後」というテーマは、ただそれだけでは漠然としていて興味が沸かないかもしれませんが、「オタク」などと、1つのキーワードをつけるだけでこんなにも注目されるとは!



本を読んだ人の感想がインターネットに上がるのですが、どれも好評で、批判が無いのが不安なくらいでした。



「オタクの老後」の内容は、「高齢社会ビジネス研究会」の為に勉強してきた事を活かして書いています。

評論誌といってしまうか、オタクに向けての老後を考えるきっかけの本として良いものが出来たのは、この会あつての事でした。



その「高齢社会ビジネス研究会」の第3回目が、1月13日に開催されました。

今回、これまでの参加者の中から登壇者を募る事が出来、会がより伸張しているなと実感します。

内容についても、東北で被災地の方々に配るためのTV電話の実演を行ったり、NGOの方による、その世界での高齢者のあり方や協力者の募集など、これまでに無い多様で具体的な事例や提案の段階にまで至りました。

また、研究会後の交流会には殆どの参加者がそのまま出席され、文字通り、活発な交流が行われたのも特徴的でした。

第4回
開催決定
3月中旬

- 高齢化問題に興味がある
- 新しいビジネスを考えたい
- ピングプランの主導する異業種交流会かー!
- 私もおタクなんです

ピングプラン
浦田まで!

03-5817-4308

二次会運営論

騒がない
注がない
乾杯しない



お説教厳禁

ここ重要！
試験にでるよ！！

ここ暫く、セミナー等での2次会を企画する事が多いのですが、色々と試行錯誤中でして、悩むことが多いです。

例えば、会場を借り切って自分達で食事と飲み物を用意するときに、「ノンアルコールビールを用意するべきか？」「お寿司は並でいいよね？上とかじゃなくてもいいよね？」「僕はお酌に特化したほうがいいのかな？かな？」などを、真剣に悩んでいます。不安なんです。

そんな中、最近知遇を得た株式会社C60の谷藤さんに教えてもらった運営のコツの1つを「いいな！」と思ったので紹介させていただきます。

それは「注がない」というものです。

手酌を徹底。お酌はトークが止まるのと、常に空きグラスを気にすることになるため気が散ります。目上・目下を意識させるのもお酌のよくない点とし、「気が利かないな～」のような発言は禁止です。

谷藤さんはこれらのノウハウをちゃんとルール化して、ウェブ上に公開しています。「語り Bar 実践マニュアル」で検索してみてください。PDF がダウンロードできますよ。

(ウラタ)

弊社さまざまな方との交流がございまして、度々、面白いお土産を頂きます。

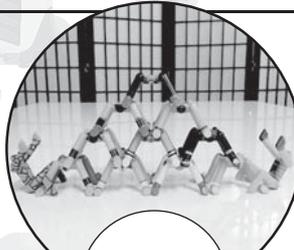
今回は、とらのあな「人間大好」のキン肉マンバージョン、「キン肉マン大好」です！「大好」は「ダイス」と読むそうです。

そう、ダイス！サイコロなのです（あと箸置き）

転がしてみても、落ちた時の向きで点数を競ったり、何かに迷ったらダイスに託してみるのもいいかも？！



おみやげ
もらった



表面がツルツルしているので、積んでみるとバランスをとるのが難しく、たくさん持てれば一人ずつ積んでいって、落とした人が負けという遊びも盛り上がります！

トランプみたいに色々な形に積んでもいいかも！
一見すると単純かもしれませんが、遊んでみると盛り上がるので、おもちゃというのは奥が深いなあと思いました。

素敵なお土産に感謝です！（さよ）



イギリスの音楽レーベルからシングルをだしたいので、鈴木先生に題字をお願いしたいです！

気づけば口から飛び出ていた言葉

私、藤野は日曜ミュージシャン（今は）として、インターネット経由で日夜活動しています。

未来を共謀する仲間であり、パートナーであります、書家で篆刻家で拓本家である鈴木啓義先生の仕事現場を訪れたのが、この発端。

筆が紙を走るメロディー、文字が形になっていく姿に「うわあ、これは…なんというか、これだ！」と言語にできない事態に遭遇しました。楷書・行書・隷書・篆書…様々な書の歴史から、必要じゃなくて「必然」を見つけ出して形にしていく工程…。

まさにプロ…。カチカチカチカチと必然が形をなしていく姿に、「お、俺もこんな風にプログラミングできたら…」なんて。

昔、ちょーっと書道をかじっていた自分には、面白い！面白すぎるぜ！

ってな感じですっかり惚れ込んでしまっていて、文頭の言葉を発するに至ったわけです。

普段書いている、見慣れている文字、もう一度見直せるいい機会でした。

「なーにをあげさな」

いえいえ、試しに今、紙とペンを用意してみてください。

そうしたら、「言葉」という字を丁寧に書いてみてください。

きっと、その形の美しさに気づいていただけるのではないのでしょうか。

そうでもない？

ンー、そんなアナタは今すぐ <http://keigisuzuki.com/> にアクセス、トップページの書を見るのです！どうかな？(^^)

さてさて、鈴木先生の綺麗な「言葉」と僕の「音楽」がひとつになったタグチーム！果たしてどうなるのか!? 続報を待て！

<http://soundcloud.com/silvanianfamilies/>

おまけ

誰のマグカップでしょうか？

持ち物には持ち主の人生が現れます。これらのマグカップに刻まれた生きざま、はたして誰のものでしょうか。



【ヒント】最近集めているものは？

石井：LA グッズ
中村：vector
浦田：L8XMP
藤野：安齋千代美
橋本：刀剣男子

ピングプラン通信
2015年2月号
題字：エヌ氏

お問い合わせ：03-5817-4308 info-cs@pingplan.com